

「健康な食事」の認証に向けた基準の考え方について（案）

- 基準は、客観的に評価できるものであること
 - 具体的に、数値で評価できるものであること。

- 望ましい食パターンに合致すること
 - 科学的根拠を踏まえ、栄養素、食品、料理を複合的に組み合わせた望ましい食パターの検討が必要。
なお、望ましい食パターンは、食事摂取基準（2015年版）を踏まえて、検証。

- 基準は、企業が商品化しやすい実践可能なものであること
 - 関係する企業に、幅広く意見聴取が必要。

- 「健康な食事」を無理なく続けるための条件について配慮されていること
 - （例） *おいしさ
 - *旬の食材や地場産物の使用
 - *目的や対象に合わせた調理法
 - *多様なライフスタイルに合わせた食べ方